

人流・物流の拡大に向けた活力あるまちづくり

平成27年度は、高速道路網の完成や京都舞鶴港の機能強化により、人の流れや物の流れが劇的に変化し、本市にとつてかつてないチャンスが到来します。まさにこれからが京都府北部の時代であり、市では、この最大の好機を活かし、人流・物流の拡大による「活力あるまちづくり」を積極的に推進しています。シリーズ市政の「今」。第20回は、京都舞鶴港の機能強化と道路網の整備についてお知らせします。

京都舞鶴港へのアクセス向上

市では、「東アジアに躍動する国際交流・港湾都市 舞鶴」を都市像に掲げています。その実現に向け、東アジアへの至近性という地の利を活かし、近畿圏日本海側唯一の国際貿易港である京都舞鶴港の活用を最重要施策として推し進めています。

本市を取り巻く高速道路網の整備については、本年7月18日(土)に府を南北に貫く京都縦貫自動車道(※4・5キロ)に関連記事)が全線開通します。また、舞鶴若狭自動車道では昨年の全線開通に加え、平成32年度末には、福知山ICから舞鶴西ICまでの暫定2車線となっていた区間(14・9キロ)の4車線化が完成する予定。

これらにより関西圏・中京圏・北陸圏との広域回遊性が向上し、京都舞鶴港の対岸諸国と各経済圏を結ぶゲートウェイとしての役割が一層高まっています。

はばたく京都舞鶴港へ

現在、京都舞鶴港は、平成23年11月に国から日本海側拠点港の選定を受けた「国際海上コンテナ」、「国際フェリー・国際RORO船※」、「外航クルーズ」の3つの機能強化に取り組んでいます。

まず、「国際海上コンテナ」の機能としては、多目的国際ターミナル・舞鶴国際ふ頭を核としてコンテナなどの物流の拡大を図ります。コンテナ船や貨物船の2隻同時接岸が可能

※RORO船：旅客を乗せない貨物自動車専用フェリー

で、13万トンのクルーズ客船にも対応できる岸壁の延伸や多目的クレーンの設置など国・府と連携しながら港湾機能を強化(図1)。

また、京都舞鶴港における平成26年の取扱貨物量は、1,075万トンの取扱貨物量は、1,075万トンの5年連続して1,000万トンを超えました。今後さらに京都舞鶴港の背後圏に立地する企業への集荷活動を市長のトップセールスも交えながら強化することで、新規貨物の開拓を図り、新規航路の開設や既存航路の活性化に取り組みます(写真1)。

国際フェリーの早期就航を目指して

「国際フェリー・国際RORO船」の機能としては、現在、ウラジオストク港(ロシア)との間で中古自動車を中心に月2〜3回のペースでRORO船が入港しています。今後は、韓国東岸やロシア極東と至近距離にあるという地理的優位性を発揮し、東草津港(韓国)、ザルビノ港(ロシア)を結ぶ日韓露国際フェリー航路の早期開設に取り組んでいく予定です。

クルーズ客船のさらなる誘致

「外航クルーズ」の機能としては、アジアの経済成長などによりクルーズ客船を利用した日本への観光が急増していることを踏まえ、本市でも受け入れを強化しています。本年は8回の寄港を予定。来年度は現段階で13回が予定され、過去最高であった昨年の15回を上回るよう取り組むなど、「海の京都」の玄関口として知名度の向上を図り、寄港回数の上昇による増加につなげていきます。併せて、観光客のまちなかへの回遊性を高め、おもてなしによる経済の活性化にも取り組んでいきます。

これらの達成のため、西港第2ふ頭では、港湾施設の老朽化対策が実施されるほか、本年8月には旅客ターミナルの完成が見込まれるなど、引き続き京都舞鶴港の機能強化に取り組んでいきます。

西舞鶴道路の整備と小倉西舞鶴線白鳥トンネル区間の4車線化

西地区を走る国道27号は、幹線道路と生活道路としての機能を併せ持つため、朝夕の通勤時などは主要交差点で交通渋滞が発生します。このため、西地区の交通渋滞の緩和と京都舞鶴港や舞鶴若狭自動車道とのアクセスの改善を図ることを目的に上安と京田を結ぶ約4・9キロの「西舞鶴道路」を国が新たに整備するも



▲図1：舞鶴国際ふ頭の機能強化後の予想図



▲写真1：ポートセールスを行う多々見市長(右)

ので、新しいまちづくりに貢献する幹線道路が誕生します。

また、東西市街地を最短距離で結ぶ府道小倉西舞鶴線については、歩行者・自転車の通行の安全性向上と慢性的な渋滞の解消のため、白鳥トンネルおよびその前後約1・4キロ区間の4車線化と歩道の設置に着手します。

都市基盤を支える道路網

市の幹線道路については、和泉通線の南工区(延長340キロ)の整備を進め、府道小倉西舞鶴線まで延伸。東市街地の渋滞緩和や歩行者の安全確保、防災機能の強化を図ります。

また、引土境谷線は、伊佐津七日市線から国が整備を進める西舞鶴道路までの区間(延長370キロ)を整備します。現在、伊佐津川に架かる境谷橋(歩行者と自転車のみ通行可)に代わり、自動車も通行可能な橋として整備し、西地区の道路網の充実と交通の円滑化、そして安全性の向上を図っていきます。

将来を見据えたまちづくり

これら京都舞鶴港の活用と道路交通網のインフラ整備により、魅力あふれる地方都市を創生するため、国や府、関係機関などと連携し、人・モノが活発に交流する将来を見据えたまちづくりの礎を築く積極的な事業促進に取り組めます。

